

令和7年4月～令和8年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
4	26	芳野光夫 善宝俊文	<p>開催日時：2025年4月26日（土） 10：00～11：04</p> <p>天候：曇り 参加者：18名（他に子供2名） テーマ：新緑と初夏の花 報告者：善宝俊文</p> <p>4月下旬にしてはやや肌寒い中での開催となった。1週間余り前の下見の時は咲いていなかったミズキは花を開いていたが、楽しみにしていたユリノキは蕾のままだった。</p> <p><観察したもの>フジ（ノダフジ。右巻きであること。まだ花はまばらだった。）。ヤマボウシの花。イチヨウ並木の新葉（ジュラ紀からの生き残りであること）。トウカエデの花。ムクノキの花（樹皮の特徴）。エノキの実。ヤマザクラの巨木。ギョイコウ（御衣黄）。ハナミズキ。タケ（竹の秋。タケの成長。）。マツ（この時期の剪定の仕方）。ヒメウツギなど。</p>	 <p>ミズキ（ミズキ科ミズキ属） 山地に普通に生え、日当たりの良い沢沿いに多い。 名は、春先に枝を切ると水のような樹液が多量に流れ出ることから。 枝が幹から車輪状に出て、あまり斜上せず伸びるため、樹形は独特の階段状となる。成長が早いため、ときに街路樹や公園の緑陰樹として植栽されることも多い。材は細工しやすく、玩具や器、箸などに使われる。</p>	 <p>ユリノキ（モクレン科ユリノキ属） 北米原産。世界の温帯各地で広く栽培される。 現地では60mもの大木に成り、インディアンは昔これで丸木舟を作った。 日本には明治の初めに渡来し、街路樹などとして栽培される。高さ20m。5月、枝先にチューリップに似た黄緑色の花をつける。花弁の基部は明るい橙色。葉ははんでんのような形をしている。</p>	

令和7年4月～令和8年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
5	24	河野 満 桑原 裕則	<p>開催日時 2025年5月24日(土) 10:00～11:15</p> <p>天候:曇り 参加者:12名 テーマ:植物と昆虫の関係 報告者:桑原裕則</p> <p>桑原のガイドデビュー戦のため12名全員の1グループでガイドを行った。1週間前に下見を行い日本庭園のスイレンやコウホネが見ごろであること、多くの樹種が実をつけていることなどを確認した。当日は、スタート地点付近にあるカワヅザクラやヤマグワ、日本庭園のウグイスカグラの実が熟し始めており、鳥散布について解説した。桑原が担当予定していたヤグルマギクは下見で満開であったが、当日はほとんど刈り取られていた。園芸種を解説対象にすることの難しさを感じた。(参加者には数本残っていたヤグルマギクで解説した)</p> <p>モチノキの実にモチノキタネオナガコバチが出てきた痕跡があることからモチノキとモチノキタネオナガコバチの騙しあいについて解説した。</p> <p>〈観察したもの〉 カワヅザクラ、ヤマグワ、スイレン、コウホネ、ウグイスカグラ、ヤマボウシ、ユリノキ、ヒマラヤスギ、モチノキ、ヒノキ、サワラ、オオバコ、ヤグルマギク、ネモフィラほか園芸種など</p>			
6	28	渡辺 二宮				
9	27	善宝 毛利				
10	18	池田 河野	テーマ:昆虫			
11	22	久保 桑原				
12	20	松本 毛利				
1	24	芳野 渡辺	テーマ:パードウォッチング			
2	28	久保 鈴木				
3	28	二宮 佐藤				

スイレン <スイレン科 スイレン属>
多年生の浮葉植物であり、地下茎から根を張り、そこから長い葉柄が生じ、浮水葉が水面に浮かんでいる。花は地下茎から生じた長い花柄の先端に1個ずつつき、水面または水上へ抜け出て開花する。基本的に雌性先熟(雌しべと雄しべの成熟をずらして自家受粉を避ける)であるが、自家受粉を行うものもある。夜間に開花する種は強い匂いを発し、ふつう発熱性であり、主に甲虫によって花粉媒介される。昼間に開花する種は主にハチ目やハエ目に花粉媒介される。

ヤマボウシ <ミズキ科 ミズキ属>
初夏を代表する花木で、花びらのように白く見える総苞片をつけて花を咲かせる。開花は近縁のハナミズキより遅く、葉が完全に開いてから白い装飾花が多数つく。花弁に見える総苞は4枚ある。街路樹・庭園樹・公園樹としても用いられ、あまり大きくならないので庭木にも向いている。果実はサッカーボールに似た感じの球形で、9月ごろ赤く熟し食用になる。